



目次

生命科学図書館に ラーニング・コモンズが誕生しました	P.1-2
ラーニング・コモンズ特集	P.3
海外大学訪問記	P.4-5
NEWS 図書館からのお知らせ	P.6-7
教員著作寄贈資料のご紹介	P.8

完成まで
その①

2月4日の様子。このフロアが新しく生まれ変わる前の姿です。参考資料などが並んでいました。



2月19日の様子。棚移動が行われ、カーペットが貼り替えられて随分印象が変わりました。

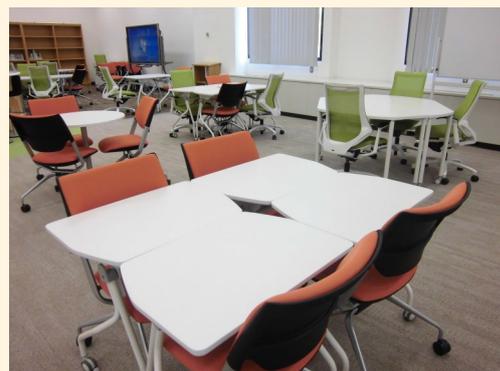
生命科学図書館に
ラーニング・コモンズが誕生しました

2014年4月1日、生命科学図書館にラーニング・コモンズがオープンしました。これまで参考資料を配置していた場所が、新たな使命をもって生まれ変わりました。

ラーニング・コモンズは、学生・教員・職員が、互いの学びをサポートしあうための場所です。個人学習、レポート作成、少人数グループでのディスカッションやプレゼンテーションのほか、30人程度までなら、授業、講習会、セミナー等でも活用できます。タッチディスプレイ、ホワイトボード、データベース検索用端末、貸出用プロジェクタ、貸出用ノートPCといった設備を用意しています。ノートPCは利用者にも好評で、コモンズ内にとどまらず、館内のいたるところで使用されています。



↑1F参考カウンターの右側、奥に入ったスペースにオープン。中心にはシンボルとなる柱があり、観葉植物とカウンターテーブルに囲まれています。



↑総合・理工学・外国学図書館のラーニング・コモンズと同じく、自由に組み合わせが可能な机も用意。色だけでなくデザインも異なる、二種類の椅子を使用しています。

コモンズそのものの利用に関しては、原則的に予約や申請は必要ありませんが、授業、講習会、イベント等で利用したい場合は、事前に参考カウンターまで相談にきてください。

新しい情報やアイデアに巡り合うためのラーニング・コモンズ。まだご覧になっていない方は、ぜひ一度生命科学図書館に足を運んでみてください。開かれた空間なので、活動を周囲にアピールすることにもつながるかと思います。自由な発想で活用してみましょ！

吹田地区図書館サービス課
六車 彩都子

【こんな設備を用意しています！！】

完成まで
その②



3月3日の様子。1日かかりで壁紙が貼り替えられました。全体的に明るい印象になりました。



3月6日の様子。テーブルや椅子が搬入され、柱の様子も変わりました。完成までかなり近づいています。



3月18日の様子。「Learning Commons」の文字が入り、柱の周りにカウンターテーブルを設置。タッチディスプレイなども用意され、完成しました！

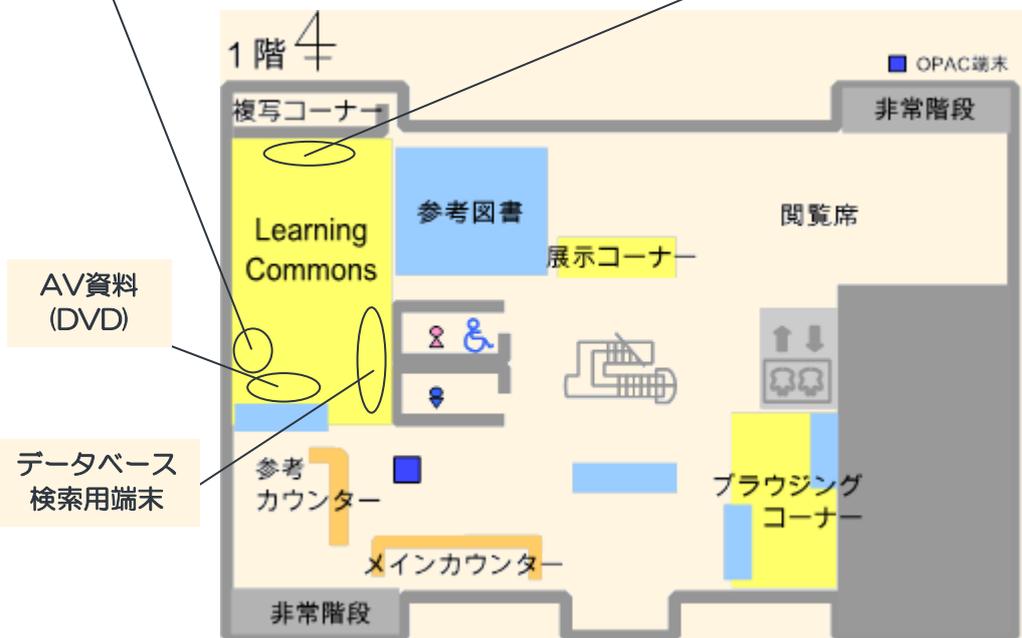


タッチディスプレイ

70インチの大画面、タッチ操作対応のディスプレイです。ディスクッションなどに、予約不要で自由にお使いいただけます。

ホワイトボード

畳サイズの可動式のものを2式と、なんと畳3枚分もの巨大なホワイトボードを用意しています。可動式のものはパーティションとしても活用できます。



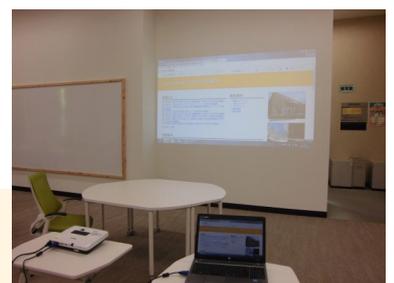
貸出用ノートパソコン

Windows10台を用意しています。メインカウンターにて貸出手続きを行っています。(Webへのアクセスには大阪大学個人IDによる認証が必要です。)



貸出用プロジェクタ

自由に使用いただけるプロジェクタも1台用意しています。メインカウンターにて貸出手続きを行っています。



【どんな風に利用されているの？】

昼や夕方を中心に、個人やグループでの学習にそれぞれのスタイルに合わせてご利用いただいています。

また、講習会やワークショップなども、図書館主催、教職員、学生主催を問わず行っています。みなさまの新たな企画をお待ちしております。



文献検索講習会の様子

ラーニング・コモンズ特集

全キャンパスのラーニング・コモンズが勢ぞろいしました。

総合図書館

ラーニング・コモンズ&グローバル・コモンズ

2009年にオープンした総合図書館のラーニング・コモンズ。自由に議論ができる空間として、2014年7月に新装オープンしたグローバル・コモンズとともに、毎日多くの学生が集まって活況を見せています。授業で使用されることも多く、職員や*TAが企画・立案した講習会を実施したり、ディスカッション・ボードを設置したりしています。そうした取り組みを通じて、総合図書館が学びと交わりの「場」として機能するための重要な基点となっています。一層多くの方々のご利用をお待ちしています。

過去の講習会とディスカッション・ボード（一部）

【講習会】

ニュースを読み解くキーワード「難民」、新入生・学部生のためのパソコン講座、法学における判例の重要性 など

【ディスカッション・ボード】

ブラジルでのW杯開催の是非を問う、阪大の英語での講義を増やすべきか など



ディスカッション・ボード



ディスカッション・ボードはTAの安藤さんが企画。図書館をただ勉強しに来るだけではなく、自分の意見を発信し、みんなに見てもらおう場にしたという狙いから、自分の意見に他の人からコメントがつく楽しみも。トークイベントとのコラボもっており、今後新たなテーマを加えていく予定。乞うご期待！

理工学図書館

ラーニング・コモンズ



TA講習会の様子

座席数48、PC29台、プリンター1台を備え、のべ4か国語に対応できる工学系のTAが毎日来てくれます。

留学生をはじめ、外国語を学びたい日本人学生がお話しに来ることもあります。

2014年度は、そんなTAによる講習会をラーニング・コモンズで開催しました。事前申込をしていなかった

通りがかりの学生にも、気楽に参加・聴講してもらうことができました。

授業期間中はいつも、ディスカッションする学生や、喋りながら勉強したい学生たちで賑わっており、試験期になると順番待ちが出るほど、館内でも人気のスペースです。



外国学図書館

ラーニング・コモンズ



「るくす」（外国語学部章に刻まれた“EX ORIENTE LUX ET PAX”「光と平和は東方より」に由来）の愛称で親しまれています。るくすTAは言語や専門・経験を活かし、学生相談はもちろん、講習会・展示・イベント・パスファインダー「るくばす」の作成を行っています。専攻の学生以外でも気軽に参加できるようにと、語科主催のイベント（詳しくは「お知らせ」p.7）をるくすで開催したり、展示本の中に教員のおすすめを置いたり、教員と連携した催しも行っています。さまざまな展示が行われ、相談や利用がしやすい、魅力あふれる空間です。

過去の講習会・展示（一部）

【講習会】

海外の大使館で働く派遣員の仕事、日本語教師として働く、フィールドワーク入門、語学試験対策 など

【展示】

大学院進学相談、本と本とのつながりを求めて、旅に出たくなる本・春に読みたい本、外に目を向け展 など



学問の「道しるべ」としての、るくすTA作成パスファインダー「るくばす」。「日本語を教える」などのテーマ別（左上：オレンジ色見出し）から、「参考文献の書き方」などのHow toもの（右上：えんじ色見出し）までバラエティー豊かなものを提供中。外国学図書館入り口や附属図書館Webサイトに入手可能！

海外大学訪問記

視察余話 (北米)



(上) 交換留学でトロント大学に在学中の阪大生2名とミーティング。夕食を兼ねてお話を伺いました。住まい探しの苦労や、大学のWebサービスなど、留学生の視点で学生生活全般を伺うことができました。



(上) ピッツバーグ大学 Pitt Shop。日本の標準的コンビニより広がったのでしょうか。シャツにズボン、多種多様な小物類。実際、ロゴ入りトレーナーを着ている学生も多く見かけます。



(上) トロント大学 図書館にフードコート。北米では大学図書館内にカフェテリアがあるのは一般的です。この写真は午後4時前ですが、混雑していました。ピッツバーグ大学図書館のカフェテリアでは、試験期間の深夜や早朝、無料でコーヒー・紅茶が提供されます。

2014年2月、図書館の職員2名が北米、フランスの大学を訪問し、図書館等施設の見学、職員との意見交換を行いました。これは、学内の研究大学強化促進事業の一つとして実施されたもので、職員の国際感覚の養成、向上を目的としています。ここでは、特色ある活動や施設の調査結果、また職員や学生たちに接して感じたことなどを報告します。

【北米編】

総合図書館 久保山 健

現地の大雪のニュースに少しの心配をはらみながら、トロント大学(カナダ)とピッツバーグ大学(アメリカ)を視察しました。筆者は坂尻准教授(全学教育推進機構)と共に、主に図書館とライティング・センターを訪問しました。他に、ブランド戦略や留学生支援の担当部署を訪問したメンバーもいました。現地4泊という過密日程ながら、それぞれの視察に部分的に同行することもでき、視野を広げる有意義なものでした。



トロント大学 ロバーツ図書館

14階建ての巨大な図書館。10年近く前から、24時間開館。授業期は、日曜午前～金曜夜まで開館。但し、深夜・早朝は1～3階のみ。



ピッツバーグ大学 ライティング・センター

開放的な空間で、TAを多用した個別指導が行われている。TAの養成は授業にて。図書館にもサテライトがある。寒い季節は外出しにくく申込みが減るか!?



ピッツバーグ大学 ヒルマン図書館

本学で言えば、ラーニング・コモンス的な空間。筆者がかつて滞在していた2008年には事務室だった空間(写真・左下)を改装して、学習スペースを増加させていました。



ピッツバーグ大学 イベントセンター

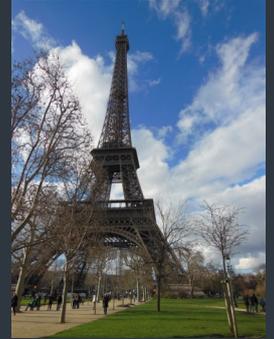
バスケットボール・スタジアムや記者会見ルーム、カフェテリアに学生専用スポーツジムを併設。コートには大学ロゴをプリント。ブランド戦略的にも興味深い施設。アカデミック・センターも併設し、選手専用のコンピュータやチューターまで提供。



【フランス編】

理工学図書館 山本 侑子

私たちの一行は図書館と学生部からの混成チームで、フランスの3つの大学を訪問し、図書館におけるレファレンスや講習会などの活動と、障害を持つ教職員や学生に対する大学の支援活動の2点をテーマに調査しました。ここでは主に前者の内容について、一部になります報告します。



訪問後記 (フランス)

フランスの大学図書館を訪問して、日本と共有する問題の多いことに驚きました。さらには、それらの問題に向かっていく職員の情熱的な態度や言葉がとても印象的でした。今回学んだことを、阪大の学修支援活動の進化に生かしていきたいと思います。

1週間の研修に快く送り出してくださいました理工学図書館をはじめ、図書館のみなさんに感謝いたします。

パリ-ディドロ/パリ第7大学 (パリ)



セーヌ左岸にあるディドロ大学は文科系学部を中心とする総合大学です。図書館は製粉所をリノベーションしたもので、歴史的な外観とモダンな内装を併せ持つ建物でした。

ディドロ大学図書館では、分野別のページに関連データベース、電子ジャーナル、レファレンス担当者の連絡先などをまとめたポータルサイト「Parcours」を公開しています。非来館のサービスに対する需要に応じて始めたとのことでした。担当者の「図書館のサービスをいかにアピールするかを常に意識している」との言葉が印象的でした。

ピエール・マリー・キュリー大学 (パリ)

キュリー夫妻にちなんだ名前の通り、理学、工学、医学の理系学部のみで構成されている大学です。ここでは図書館の講習会担当者の熱意に圧倒されました。



講習会企画においては、学部生、修士、博士、教員と対象ごとに担当者を受け各レベルに対応しつつ、全体としては一貫した情報教育プログラム体系を構築しています。また、講師は特定の部署・職名にかかわらず、図書館内から選抜したチームで行っているそうです。

阪大図書館にも似た取り組みはありますが、ピエール・マリー・キュリー大学では、教える立場を経験することで、職員全体の情報教育への意識やモチベーション向上に役立てる、という明確な目的をもって行っている点に感心しました。

ストラスブール大学 (ストラスブール)

フランス北東部のアルザス地方にあるストラスブール大学でも調査を行いました。この大学は3つの大学が統合してできた大規模総合大学で、図書館も大小30館以上あります。中でも総合的な図書館、U2-U3図書館を訪問しました。

ここでは、対象学部ごとに異なるプログラムを組んで情報教育に関する講習会を行っており、講習会には図書館での実習を積極的に取り入れています。

インタビューの中で出た「英語文献がほとんどの電子ブックが、学部生にあまり利用されないのが悩みの種」という言葉には、非英語圏という意味ではフランスも日本と同じなのだ、と意外な思いがしました。



*MOOC (大規模オンライン講座)

フランスでは、2013年10月に国営プラットフォームを開設し、国を挙げてMOOCを推進しています。3大学でのMOOCの取り組みについても調査しました。

今のところ、今回訪問した3大学はいずれも発信開始には至っていませんが、大学のブランド力向上のツールとして、また図書館の情報リテラシー教育における反転授業(Flipped Classroom)の事前自習教材として、関心は高いとのことでした。「実現には教員・技術担当者・図書館等の連携が重要だが、そこが難しい」というディドロ大学職員の言葉が実情をよく表しているようでした。

注目の取り組み

*MOOC (Massive Open Online Course)
大学などの教育機関がインターネットで提供する無料オンライン公開講座のこと。

NEWS☆図書館からのお知らせ(2014.3～)

いちよう祭参加

◆ 2014年度のいちよう祭(5月2日～3日)の期間中、総合図書館では施設を開放し、館内ツアーおよび図書展示を行いました。通常、学外の方は大阪大学所蔵資料を利用希望の場合のみ入館できるのですが、いちよう祭期間中はどなたでも見学可能としましたので、高校生やご家族の方にも見ていただき、好評でした。

ギャラリーゾーンでは、今年は総合図書館所蔵の貴重書「竹友文庫」および「忍頂寺文庫」から選りすぐりの資料を展示しました。また、附属図書館4館の紹介や commons の紹介、および建築予定の自動書庫などの大型ポスターを掲示しました。



ガンバ大阪遠藤選手の
サイン入りユニフォーム
を展示

レポートの書き方講座 [総合図]

◆ 6月5日～26日にかけて「レポートの書き方講座」を実施しました。全3回の講座を3グループに分けて実施し、学部1年生を中心にのべ44名の参加がありました。ミニレポートを書く実習を通して、レポートに対する基本的な考え方から、Wordの操作方法までを解説し、「説明を聞くだけでなく、実際に作業してイメージができた」など、好評を得ました。



新入生オリエンテーション [総合図]

◆ 主に新入生を対象に「20分でわかる図書館利用の基礎」としてオリエンテーションを13回、ツアーを18回、4月前半に実施しました。オリエンテーションには792名、ツアーには518名の参加がありました。



初心者向け論文検索講習会 [総合図]

◆ レポート作成で学術論文を上手に活用することを目的に、初心者向けの論文検索講習会を実施しました。6月3日～4日にかけて日本語編、英語編を実施し、4名の参加がありました。

データベース連続講習会 [総合図] [理工学図]

◆ 附属図書館が提供している各種データベースの講習会を5月から6月にかけて、豊中・吹田地区で開催しました。対象はSciFinder、SciVerse Scopus、Reaxys、Web of Scienceの各データベース。外部講師を招いて合わせて9回実施し、のべ254名の参加がありました。



留学生オリエンテーション [総合図] [外国学図]

◆ 国際交流オフィス学生交流推進課、および日本語日本文化教育センター、国際教育交流センターからの依頼を受け、留学生オリエンテーションとツアーを実施しました。総合図書館では4月9日、74名の短期留学生を対象に、英語による説明と館内ツアー、および日本語での見学ツアーを行いました。外国学図書館では4月8日に学部留学生プログラムの留学生60名、6月23日に短期留学生45名を対象とした、英語による館内ツアーを行いました。



5月20日、大阪大学はガンバ大阪とスポーツ医学や健康指導などをもとにしたフレンドシップ協定を結びました。これを記念し、ガンバ大阪からチームの中心人物である遠藤保仁選手のサイン入りユニフォームが大阪大学に寄贈されました。多くの方の目に触れる所ということで、総合図書館が展示場所に選ばれ、7月1日からラーニング・commons前の通路西側に展示されています。

ハンガリーの絵本作家 マレーク・ベロニカさんの世界 [外国学図]

◆ 6月11日、『ラチとらいおん』をはじめとした作品で有名な、ハンガリーの絵本作家マレーク・ベロニカさんをお招きし、講演会と作品上映会を外国学図書館るくす(ラーニング・commons)にて開催しました。ハンガリーの絵描き歌やマレークさん自作の絵描き歌を披露していただいたり、翻訳家マンディ・ハシモト・レナさんにお話しいただいたりもしました。ハンガリー語専攻の学生のみならず、計64名の方が参加され大変盛況でした。イベントに合わせ、るくすではマレークさんの作品(ハンガリー語版、日本語版)を展示し、マレークさんから一言を添えたサインを『ラチとらいおん』にいただきました。外国学図書館にありますので、ぜひご覧ください。



[主催：外国語学部ハンガリー語専攻 共催：外国学図書館]

図書展示

総合図書館

- ◆ブックコレクション ～教員 VS 学生【書評対決】～
(4月～)
- ◆研究倫理について考える
12冊
(6月～)

理工学図書館

- ◆スイスことはじめ
(3月～5月)
- ◆英語多読をはじめよう
(4月)
- ◆ブックコレクション ～教員 VS 学生【書評対決】～
(4月～)
- ◆レポートの書き方
(4月～5月)
- ◆梅雨に楽しむ12冊
(5月～7月)

外国学図書館

- ◆ROMEO AND JULIET ～
るくすTAと見る多言語の世界～
(3月～4月)
- ◆TAがいます
(4月～5月)
- ◆第39回「14冊の本棚」
表情は顔だけ!? 発話の秘密
を探る14冊+α (講演会コラボ企画)
(6月～7月)

TA講習会・イベント [総合図] [理工学図] [外国学図]

4月から7月にかけて、総合図書館、理工学図書館、外国学図書館において、図書館ティーチング・アシスタント(TA)講習会を実施しました。授業に役立つツールから、研究内容をわかりやすく紹介するものまで、TA各自の専門分野や得意分野を活かした内容で、多くの方が参加されました。

◆ 総合図書館 (ラーニング・commonsにて)

- ・統計用プログラム言語Rの使い方
- ・ニュースを読み解くキーワード「難民」
- ・法学における判例の重要性
- ・新入生・学部生のためのパソコン講座
- ・微分方程式を使ってみよう
- ・文法だけでは英語は使えるようにならない!?
～第二言語習得論の視点～



◆ 理工学図書館 (ラーニング・commons、グループ学習室にて)

- ・Illustratorの使い方 [入門編]
- ・The Difficulties Faced by International Students in Japanese University
- ・大学生活・研究活動でやっておくべきこと -先人(笑)に学ぶキャンパスライフ-
- ・身近な流れ学
- ・研究における文献検索と整理 Web of Science と Endnote
- ・エネルギーの現状と未来
- ・企業研究会
- ・研究におけるC言語の活用

◆ 外国学図書館 (るくす(ラーニング・commons)にて)

- ・中国の文献を読みたい方へ
～オンデマンドCNKI利用基本操作講習～
- ・TOEIC・TOEFLでスコアアップを狙う! 英文速読法講座
- ・Power Pointを用いたプレゼンテーションの技術
- ・悪魔が奥さんを叩いている -ハンガリーの諺とその起原-
<キャリアを考えるシリーズ>
- ・海外で働く -日本語教師の場合- 第1回: 仕事探しから赴任まで
- ・海外で働く -日本語教師の場合- 第2回: タイで日本語教師として働いて
- ・日本への留学案内 -また日本で勉強を続けたい方へ-
- ・るくす大学院進学相談週間: 2014夏
<フィールドワークに行こう!>
- ・フィールドワーク入門講座前編
- ・フィールドワークにおける倫理
- ・安全な海外旅行のために ~バックパッカーから学ぶ旅技術~



教員著作の寄贈 について

附属図書館では、本学教員の著作をできるだけ網羅的に収集し、本学の優れた教育研究活動の成果として公開しています。



教員著作コーナー
*各館にあります。
*写真は総合図書館

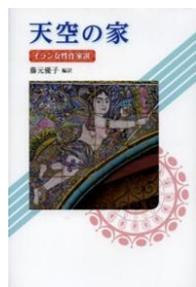
本学教員の皆さまへ

著作を刊行されました折には、ぜひとも図書館にご寄贈いただきますようお願いいたします。寄贈していただける場合は教員著作寄贈申込書を添えて、各図書館へ直接お送りください。

寄贈していただいた著作は、各図書館の「教員著作コーナー」へ集めて配架し、附属図書館Webサイトでもご紹介しています。

教員著作寄贈資料のご紹介

2014年4月～6月にご寄贈いただいた資料の一部をご紹介します。



天空の家—イラン女性作家選—
(段々社、2014)

現在イランで著名な女性作家七人の短編小説を各一点翻訳したもので、ペルシア語から翻訳した女性作家の作品が単行本になるのは、本書が初めてです。作品は1980年代以降に書かれた比較的新しいものばかりで、主人公の女性たちの年齢も、舞台となる場所も、また作風も、それぞれに異なるため、現代イラン社会の多様な側面が読み取れるはずで、イラン女性たちの生き生きした姿を映し出すことで、イラン＝「怖い国」などという一般の偏見を少しでも減らすことができたらと願っています。

藤元優子（言語文化研究科教授）

導電性接着剤は、はんだ付けで接続が出来ない低温実装や、反対に耐熱接続を可能にする。本書では、導電性接着剤に関する電気接続メカニズムや信頼性に関する最新の情報をまとめており、初めて導電性接着剤を使う方や、その特性や評価方法などを深く知りたい方にお読み頂きたい。

菅沼克昭（産業科学研究所教授）

導電性接着剤技術入門
(科学情報出版、2014)



竹簡学—中国古代思想の探究—
(大阪大学出版会、2014)

「竹簡（ちっかん）」。

この名を御存知でしょうか。中国では、紙が発明される前、細長い竹の札（ふだ）、すなわち竹簡に墨で文字を記していました。1本の長さは30センチから50センチ程度のもものが多く、幅は1センチ弱、厚さは1ミリといったものです。この竹簡を並べて綴じた形が漢字の「冊」です。

中国では、近年、この竹簡が数百枚、数千枚という単位で発見され、古代史や古代思想史の研究を大きく塗り替えようとしています。木簡に比べて認知度は低いのですが、研究材料としての豊富さ、重要性は、はるかに高いと言えます。

本書は、この竹簡に記された古代文字の解析を通して、中国古代思想史を探究しようとするものです。「竹簡学」という研究領域を確立させたいという思いも込められています。

湯浅邦弘（文学研究科教授）

